

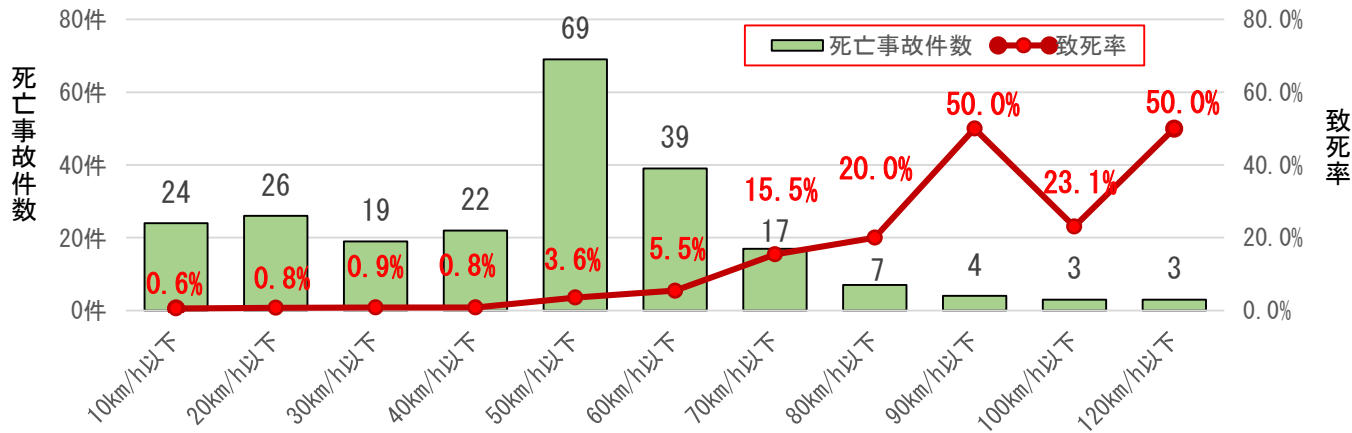
# 危険認知速度分析

～ スピードの出し過ぎは重大事故に！ ～

5年間（令和元年～令和5年）

## 【危険認知速度別死亡事故件数・致死率】

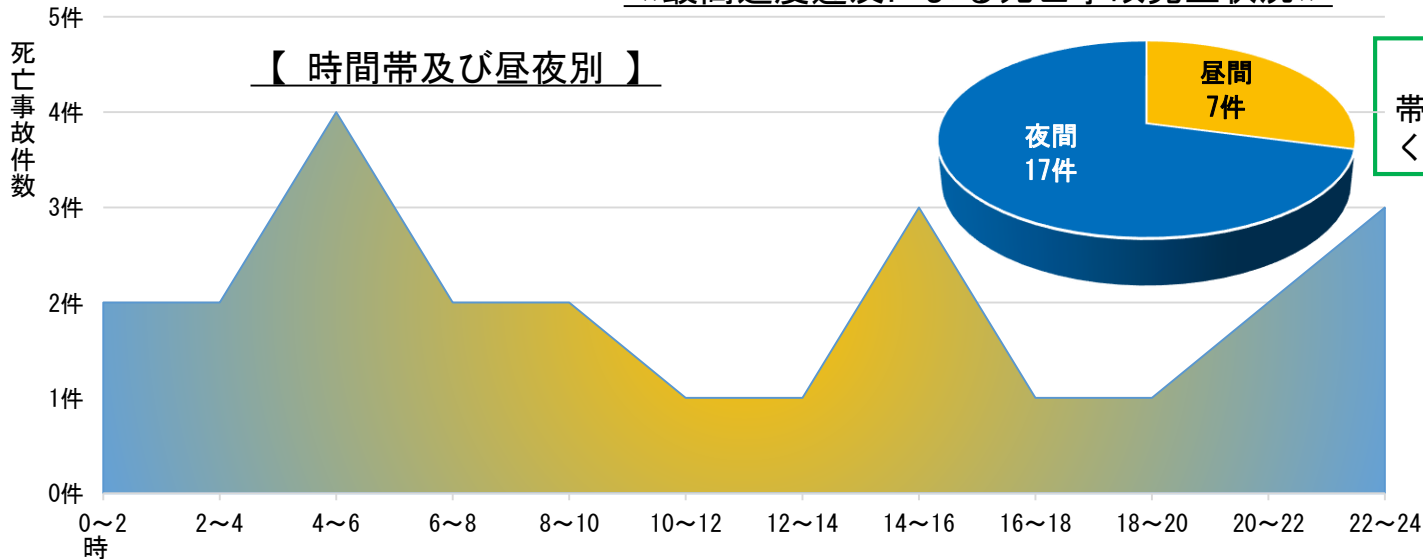
※ 高速道路等を除く事故



スピードを出すとどのくらい危険で死亡事故につながるのか、過去5年間の死亡事故（高速道路等での事故を除く）で「危険認知速度」から、速度別の致死率をみると、40km/h以下までは致死率は1.0%以下であるが、50km/hを超過したところから上昇が目立ち、速度が上がるにつれて致死率が高くなり、70km/hを超えると15%以上の致死率となる。当然ながら速度が出るほど事故時のダメージは大きく、死亡事故発生の大きな要因といえる。

注1：「危険認知速度」とは、事故当事者が相手方車両・人等を確認、危険を認知した時点の速度、例えるとブレーキ・ハンドル操作等の事故回避行動をとる直前の速度をいう。  
 注2：「致死率」とは、人身交通事故100件当たり、どの位の割合で死亡事故になるのかを示したものをいう。

## 《最高速度違反による死亡事故発生状況》

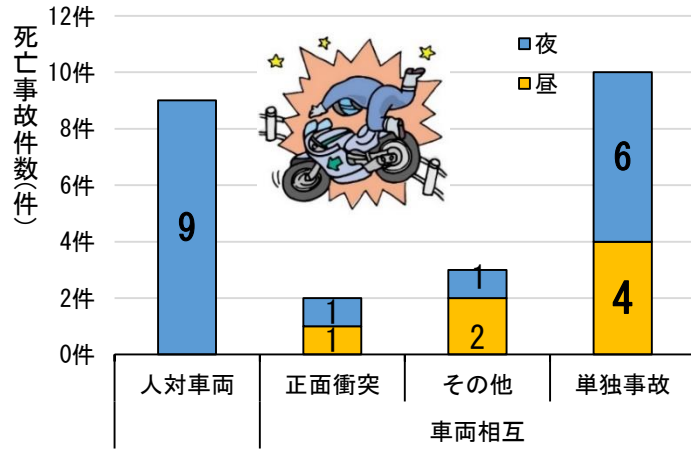


速度違反による死亡事故の発生時間帯をみると、夜間の発生が昼間より多く、特に深夜から未明の事故が多い。

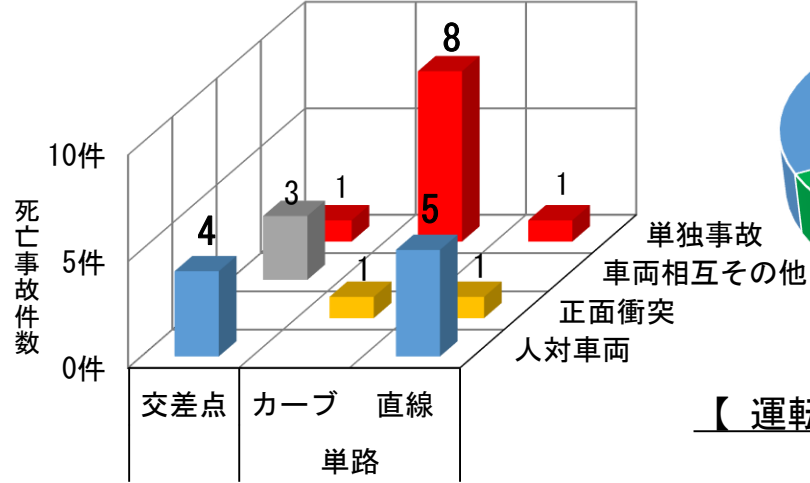


# 《最高速度違反による死亡事故発生状況》

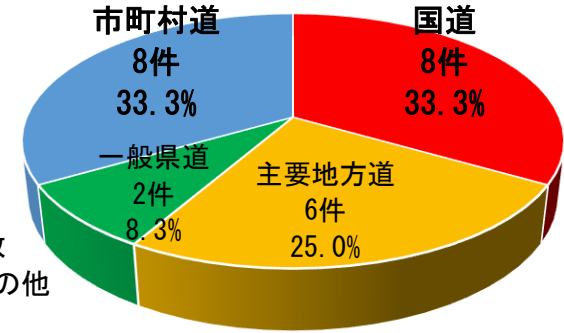
## 【 事故類型と昼夜別 】



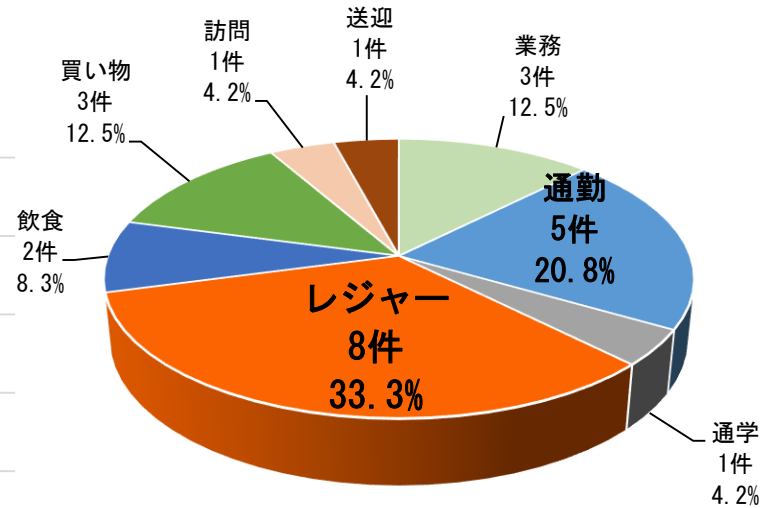
## 【 道路線形と事故類型別 】



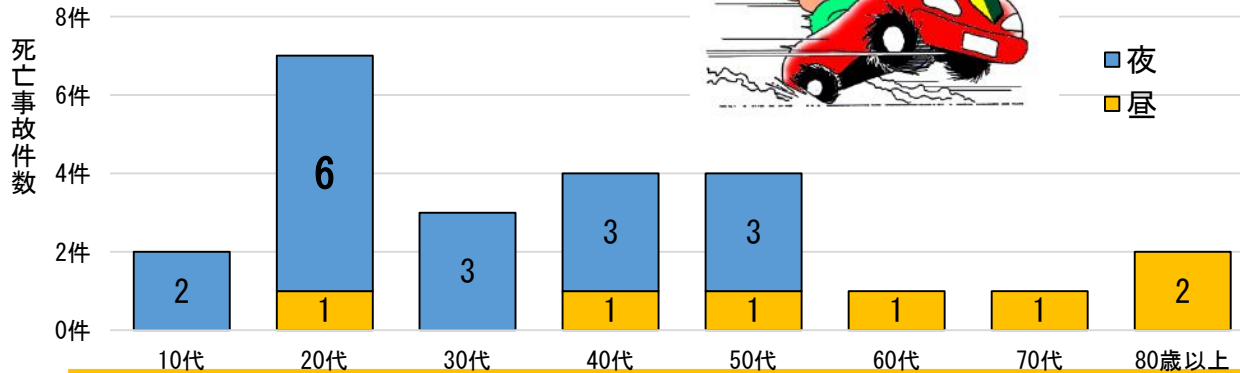
## 【 路線別 】



## 【 運転者の通行目的 】



## 【 運転者の年齢層と昼夜別 】



- ・ 単独事故が約半数を占め、カーブでの事故が目立つ。また、対歩行者事故はいずれも夜間の事故となっている。
- ・ レジャーでの事故が3割強を占めるほか、通勤中の事故も多い。
- ・ 運転者の年齢層が若いほど夜間の事故が多く、60代以上は昼間の事故のみとなっている。
- ・ 路線別に見ると、国道や主要地方道といった幹線道路が半数以上と多い。

